

2006年度の年會に合わせ、ジャパニーズ・ジャーナル 3rd series の創刊号が出版されました。これに関する経緯などを報告します。

【1】New Series (1975-2005) 終了の経緯

日本学術研究会議によって 1924 年に編纂・発刊されたジャパニーズ・ジャーナル(1924-1974)は、長い論文も掲載できる雑誌として 1975 年に New Series(1975-2005)として再発足し、それ以来、各大学の紀要などから査読が終わった論文の委譲を受け、紀伊国屋書店で編集・製作・販売を行ってきました。ところが、時間が経つにしたがって、「各大学が優れた論文をジャパニーズ・ジャーナルに推薦する」という理念が希薄になり、良い論文を集めることが難しくなり、また販売数も落ち込んできました。この様な情勢の中、一昨年の夏、紀伊国屋書店から「ジャパニーズ・ジャーナルの編集・製作・販売から手を引きたい」との意思表示があり、日本数学会と紀伊国屋の交渉の結果、平成 17 年末まで紀伊国屋に継続をお願いし、平成 18 年以降どうするかは日本数学会が決めることになりました。

【2】3rd Series 発行の方針決定まで

そこで理事会は、ワーキング・グループを作り、「ジャパニーズ・ジャーナルをどうするか」を検討しました。「廃刊・休刊しかない」と悲観する見方も強かったのですが、小林俊行氏から「1924 年から途絶えることなく世界へ発信され続けていた数学欧文誌を廃刊させてしまっただけでは、失うものが大きすぎる」との意見が出され、建て直し策として、「ジャパニーズ・ジャーナルの名前は残して、雑誌のコンセプトを変え、創造性のあるサーベイ論文に特化したジャーナルにする」という方針が提案されました。ワーキング・グループでは小林氏の提案を検討の結果、提案にしたがい、これまでと同様年 2 回合計約 400 ページの刊行を継続する案を理事会に報告いたしました。

理事会はワーキング・グループの報告を詳細に検討した結果、以下のような方針を決め、昨年の年會の折の評議員會とジャパニーズ・ジャーナルの編集委員会で説明し、了承を得ました(昨年 5 月の数学通信参照)。

1. 新しいジャパニーズ・ジャーナルについて

- ・サーヴェイ論文であるが査読を行う。
- ・4-5 人の Editors をおくことにし、発足時には、小野薫、河東泰之、小林俊行、斎藤毅、中島啓(50 音順、敬称略)の諸氏にお願いする。
(Associate Editors については、固定した Associate Editors をおく代わりに、Editor たちが、それぞれ折を見て他分野の advisors に相談することに、方針を変更いたしました。)

2. 編集委員会の移行手続き

(略)

3. 編集体制について

- ・編集事務は日本数学会の事務局で行い、そのために秘書を雇う。

・印刷と販売は出版社に依頼する。

4. 論文の Second series への受入れ (略)

【3】3rd series 創刊号発行まで

理事会ではこの案をシュプリングーに示し交渉した結果、ジャパニーズ・ジャーナルの新シリーズとして 3rd series を創刊することとし、論文集めと査読は数学会が行い、編集・制作は数学会が主体となり、シュプリングー東京が協力して行い、印刷と販売はシュプリングーが行うことで交渉がまとまりました。

そこで、シュプリングーから新しい雑誌の注文集めを行って戴くと共に、この1年間上記の5人の編集委員を中心にして原稿集めと査読を行い、数学会とシュプリングー東京で編集・制作を行い、創刊号の出版を予定の6月より3ヶ月早め、この春の年会の直前に創刊号の発行にこぎつけることができました。

皆様の中には、年会の会場で 3rd series の創刊号を御覧になった方もいらっしゃると思いますが、創刊号は、V. I. Arnold, 彌永昌吉, S. Gindikin, L. Illusie (J.-P. Serre の未公開結果の紹介を含む) A. De Sole & V. G. Kač (C. De Concini ら 5 人共著の Appendix あり), B. Royette & P. Vallois & M. Yor の 6 編の論文から成り、全部で 290 ページとなりました。

右上にある JJM の新しいロゴマークは、日本発信を象徴したシンボルの富士山と、JJM が 1924 年から絶え間なく継続して出版されてきたことを強調したものになっています。また、紙媒体以外に電子版が、3rd series 創刊号の寄稿者である彌永昌吉東大名誉教授の 100 歳の誕生日である 2006 年 4 月 2 日に出版されました。

限られた時間の中で大変な努力をして、素晴らしい創刊号を作っていただいた編集委員と、それを支えて頂いたシュプリングー東京と日本数学会の事務局に心から感謝の気持ちを表したいと思います。

【4】3rd series の編集方針と高木レクチャー

新しいジャパニーズ・ジャーナルはサーヴェイ論文を掲載することに致します。このため、高木貞治先生の名を冠した「高木レクチャー」という名の講演会を年に 2 回程度開き、その内容をジャパニーズ・ジャーナルに寄稿してもらうようにするなど、編集委員が中心となりジャパニーズ・ジャーナルの内容を充実させる努力を行います。しかし、国内外からのサーヴェイ論文の投稿にも広く窓口を開くことにしており、実際、既に海外からも投稿が始まっており、受理した論文は専門家による査読を行っています。

高木レクチャーは早ければ本年秋から始めることを検討していますが、詳細が決まり次第、皆様にお伝えすることに致します。

JJM(3rd series)の新しい Web ページが <http://www.math.or.jp/JJM/> で公開されています。

生まれ変わったジャパニーズ・ジャーナルに、皆様のご支持とご協力をお願い申し上げます。

ジャパニーズ・ジャーナル担当理事 森田康夫記